

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 664 2023年 2月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

「尊重・安心・笑顔」看護・介護を楽しもう

東京勤医会 第25回看護介護活動交流集会

12月17日、東京勤医会で「第25回看護介護活動交流集会」をWEB開催し、看護・介護活動について発表、意見交流を行いました。今回の交流集会は「尊重・安心・笑顔看護・介護を楽しもう」と一人ひとりの人生の物語をつむぎ、寄り添って」というテーマで行われました。京都民医連中央病院老人看護専門看護師の長谷川美智子さんから「高齢者『その人』の尊厳を守るケア」というテーマで記念講演を受け、学習しました。

看護・介護は安心や信頼にあふれ、人を笑顔にする楽しいもの

はじめに実行委員長で看護師の高木有理さんは「実行委員会でも今回のテーマを考える時、看護・介護は安心や信頼にあふれ、人を笑顔にする楽しいものだと話し合いました。そして、その人らしさを大事に患者さんの今まで大切にしてきたことをケアにつなげたいという思いと同時に、患者さんや多職種、私達も尊重しあうことが大事だと考えました。本日の発表は6演題ですが、全体で54演題の報告があり、沢山の会にしましょう」とあり



「高齢者『その人』の尊厳を守るケア」というテーマでWEB講演する京都民医連中央病院老人専門看護師の長谷川美智子さん。

いさつしました。

高齢者「その人」の尊厳を守ること、QOLの視点

記念講演(WEB)では、京都民医連中央病院老人看護専門看護師の長谷川美智子さんから「高齢者『その人』の尊厳を守るケア」というテーマで学習しました。高齢者の尊厳を考える上で、QOL(生活・人生の質)の視点は欠かせないものです。QOLは個人それぞれに違うもので、多次元で主観的な概念です。高齢者「その人」の価値に目を向け、尊厳を守ることです。高齢者のQOL



東京勤医会の看護・介護活動交流集会をWEB開催。代々木病院会場でWEB視聴する参加者。

生活をしていきます。主な痛みは、慢性的疼痛として腰痛、膝痛、肩関節痛、脳血管疾患として麻痺やしびれなどがあります。日本では痛み文化として耐えるのが美德とされ我慢しがちですが、病、治療、老化や廃用による痛み(がん、創傷、筋固縮、筋・関節が硬くなる、排尿、排便(便秘)、皮膚トラブルなどの緩和はQOLを高める上でとても大切です。痛みのある利用者、変形・拘縮のある利用者、認知症のある利用者、認知症の

ある利用者には、スモールチェンジといって、大きく動かさず、小さく動かすことが大事です。直接的に身体に触れず、間接的に正面に緩やかな傾斜をつけるなどして動かすことで痛みは緩和されます。精神面では、不安を緩和することも大切です。日常生活の中で対象者の意向を確認し、他者との関わりをアセスメントするなど、対象者の反応を意味付け、安心できる環境を構築することが大事です。

患者さんの尊厳を第一に、看護・介護のやりがいを実感

記念講演を受けて、演題発表に移りました。演題は、「その人らしく生きることを応援する看護」、「地域連携から切れ目ない医療を目指して」、「高齢者夫婦と精神疾患を抱える家族を支えるネットワークづくり」、「最期まで自宅で過ごしたい本人・家族の思いに寄り添い多職種で在宅生活を支えた事例からの学び」、「仕事と透析の両立が考えられず、透析を拒否する患者への透析受容支援」、「腎不全末期患者の意思決定支援を振り返る」の6演題でした。どの事例も患者さんの願い

は何か、医療者として何が出来るか、真剣に取り組んだ発表でした。参加者から「高齢者の人権、一人ひとりを尊重する医療について改めて考え学ぶことができた」、「多職種が関りいろいろな視点で考えるチーム医療の大切さを感じた」、「高齢者と一括りにせず、その人の中身、生きてきた背景を汲み取っていく大事さを学んだ」、「連携の大切さを改めて感じた。忙しい日常の中でも患者さんに寄り添い支援している実践に民医連看護のすばらしさを感じた」などの感想が寄せられました。

千駄の萱

戦争の反対は平和といいますが違和感があります。これだと戦争をしていないことは平和だ、ということになるからです。国と国との意見の違いを解決する手段を考えたとき、戦争の反対語は対話ではないか。日本政府が仮想敵と呼んでいる国と話し合う努力をしているのか、銃口を向けながら握手をしようとしていないか。そもそもその気もなにかも▼戦後、捕虜として抑留された方から「ようやく船で日本に帰るとき、ラジオで新憲法が制定されたことを知り、平和の誓いを聞いて涙が止まらなかった」と聞いたことがありますが▼私たちが人の命と健康を守る仕事です。戦後先輩たちは誓いました。「傷ついた兵士を見るよりは」と看護師たち。「教え子をして度と戦地に送らない」と教師たち。「戦争政策に加担しない」と科学者たち。そしていま「核兵器禁止条約」をすすめる人たち▼戦争準備を進める勢力が、今の日本にいます。「戦い」「闘い」の文字は戦争の匂いがするの